

中華民國 台湾投資通信

July 2021
Vol. 305

日本のワクチン提供に感謝

双方が協力し心をつなげてウイルスに対抗。台日友好。

祝東京オリンピック・パラリンピック開幕

スポーツを通じて友好と平和を促進。フェアプレイ精神を発揮。

台日経済貿易状況

台湾経済、台日両国の貿易と投資、台日技術協力、台日産業協力。

最近の台日経済貿易活動

2021年台日企業ビジネスマッチングコンベンション。

今月のトピックス 日本のワクチン提供に感謝

台湾と日本は長期にわたって相互に協力し、支えあってきた。日本は6月4日に台湾に対してアストラゼネカ（AZ）製のワクチン124万回分を提供した後、7月6日に茂木敏充・外務大臣がAZ製ワクチン113万回分を再供与することを発表、7月13日にも100万回分のAZ製ワクチンを追加贈与することを公にした。日本のワクチン提供は台湾と日本の友好的な協力関係を示し、茂木外相の発表は台湾と日本の深くて長い友情が間違いないことを証明するものである。台湾政府と市民は日本の厚情を深く心に刻み深謝するとともに、台湾と日本が協力、心をつなげてコロナウイルスに対抗すれば、感染の蔓延を阻止することに必ずや成功、共同して難関を克服することができると信じている。

2020年に新型コロナウイルス感染症が世界を襲って以来、台湾は果敢な措置をとり感染の蔓延を防いで

きた。また、外国に防疫物資を提供することで他国の防疫にも協力、国際社会から評価された。最近、新たな一波が猛威を振っている。各界の友人が台湾のために声をあげるなか、日本は国内が厳しい状況に直面しているにもかかわらず、台湾で感染が拡大する傾向にあることに鑑み、ワクチンを供与し台湾を支援することを決定した。日本は、人の苦しみを自分の苦しみのように感じ、互いに助け合う人道的な精神を発揮しており、台日両国の防疫協力が強化され、共同して困難を乗り越えることが期待できる。台日各層は互いに重要な仲間にして貴重な友人であり、台湾はこの堅実な基礎の上に両国関係を深化させ続けるであろう。人類に対して重大な脅威となっている感染症に対処する際、両者が公衆衛生面での防疫協力をさらに強固なものにし、協力して感染の防止に努め、人類の健康と安全を維持保護することを念願している。

祝東京オリンピック・パラリンピック開幕

第32回夏季オリンピック競技大会が2021年7月23日から8月8日まで、第16回夏季パラリンピック競技大会（以下、東京オリ・パラと総称）が8月24日から9月5日まで東京で開催される。世界中で新型コロナウイルス感染症が広まるなか、東京オリ・パラの実施はスポーツ競技をとおして友情と平和を積極的に促進するのみならず、人類が協調してウイルスに対抗する決意を象徴するものでもある。台湾の選手

は最善の準備をしている。そして、日本で競技に参加し、協力し合うことで57年ぶりの東京オリ・パラがさらにすばらしいものになり、世界中の人々を奮い立たせ、新型コロナウイルス感染症がもたらした暗い雰囲気から抜け出すことを大いに期待している。台湾政府と市民は東京オリ・パラが支障なく開会することを衷心より祈念している。

東京オリンピックの順調な開幕をサポートするために、謝長廷・駐日代表は6月18日に台湾選手のホストタウンである茨城県笠間市と千葉県銚子市を表敬訪問した。謝代表は台湾バナナを謹呈するほか、今回のホストタウン交流を起点に台日両国の永続的発展を念願した。さらに、100年以上前に台湾と日本を結び付けた台湾バナナは台日友好のシンボルであることを強調、バナナを通じて日本国民が台湾を更に深く認識すること、東京オリンピック後も引き続き交流を強化できることを希望した。また、謝代表は、茨城県庁に大井川和彦知事を表敬訪問、会談中日本政府が新型コロナウイルス感染症ワクチンを提供したことに対して謝意を表した。そして、東京オリンピックが円満に成功することを望むとともに、今後、茨城空港と台湾と

の直行便を通じて双方の観光、学術・文化交流がより密接になることを期待した。

6月23日謝長廷代表は、駐日代表処横浜分処の張淑玲処長等を率いて、同じくホストタウンの静岡市を表敬訪問、小学校に台湾バナナを贈呈した。今後台日両者が協力関係を強化し、早期にコロナウィルス感染症を克服できることを願った。訪問当日はまさに聖火が静岡県内を通過する日であった。謝代表は午後、招待されていた静岡県島田市開催の聖火リレーイベントに出席、染谷絹代市長と壇上に登った。オリンピック閉会後も台湾と日本の交流が継続して発展することを希望するとともに、東京オリンピックが円満に成功し、台日両国の全選手がすばらしい活躍することを祈った。

台日経済貿易の状況

台日の貿易と投資

日本は台湾にとり第3位の貿易相手国、台湾は日本にとって第4位の貿易相手国であり、このことは台湾と日本の貿易関係が緊密であることを示している。2020年の台湾と日本の貿易総額は692.8億米ドル、うち対日輸出は234.0億米ドル、日本からの輸入は458.8億米ドル、台湾側の貿易赤字は224.8億米ドルに達した。2020年における台湾の対日投資は史上最高の31件を記録、金額にすると3.88億米ドル、前年比440.0%の増加である。一方、日本の対台湾投資は283件、9.64億米ドルであり、双方を合計した投

資金額は13.52億米ドルにのぼる。

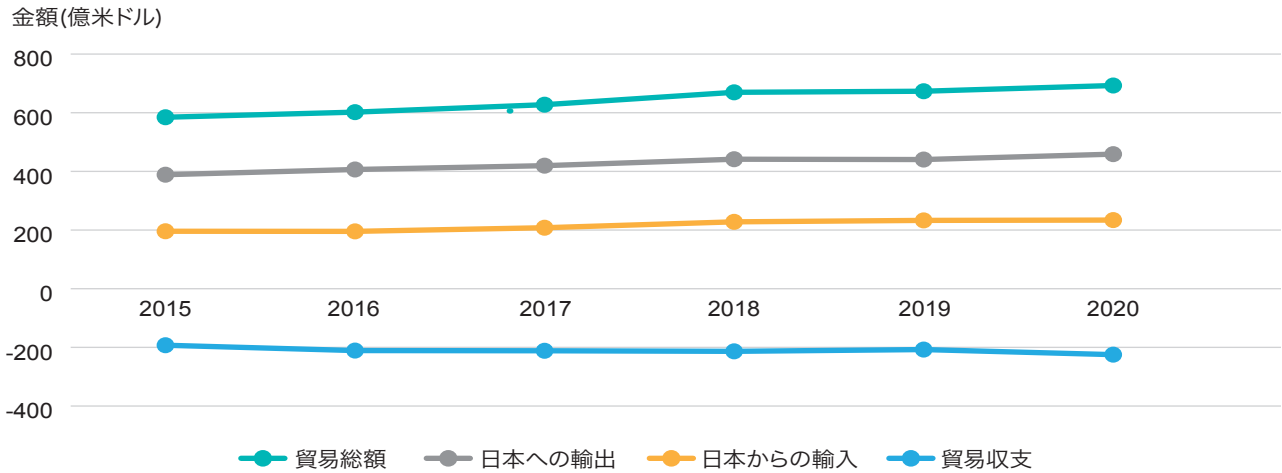
統計によると、台湾の対日主要輸出品は、集積回路、メモリー、ポリエチレンテレフタレート、マグネチック・テープ、ナフサ、機械部品、ターボジェットエンジン、コンタクトレンズ、硫酸ニッケル、メバチマグロ、プロセッサ及びコントローラー、鉄鋼製品、日本からの主要輸入品は、集積回路、メモリー、半導体設備、シリンダー、ウェーハ、ウェーハ設備、鋳鉄粘結剤、セダン車、精錬銅、半導体検査装置、キシレンである。

表1 台湾の対日貿易金額 2015-2020年

歴年	貿易総額		日本への輸出		日本からの輸入		貿易収支	
	金額 (億米ドル)	前年比 %	金額 (億米ドル)	前年比 %	金額 (億米ドル)	前年比 %	金額 (億米ドル)	前年比 %
2015	584.2	▲ 5.9	195.6	▲ 2.8	388.7	▲ 7.4	▲ 193.1	▲ 11.6
2016	600.9	2.9	194.7	▲ 0.4	406.2	4.5	▲ 211.5	9.5
2017	625.1	4.0	205.7	5.7	419.4	3.2	▲ 213.7	1.0
2018	669.5	7.1	228.0	10.8	441.5	5.3	▲ 213.5	▲ 0.1
2019	673.3	0.6	232.8	2.1	440.5	▲ 0.2	▲ 207.7	▲ 2.7
2020	692.8	2.9	234.0	0.5	458.8	4.2	▲ 224.8	8.2

出所：財政部（財政省）「貿易統計資料查詢」より経済省投資業務処作成。

図1 台湾の対日貿易金額 2015-2020年



出所：財政部（財政省）「貿易統計資料查詢」より経済省投資業務処作成。

台日技術協力

世界的な脱炭素の趨勢に対応するために、経済省は積極的に先進的測量インフラ（Advanced Metering Infrastructure: AMI）の建設を推進してきた。日本は2014年以来、漸次伝統的な機械式メーターから認証済みのスマートメーターに取り換えてきた。

日本のスマートメーターの型式認証及び検定実務の現況を知るために、経済省は「日本電気計器検定所」（JEMIC）を通じて招いた専門家に日本の型式認証と検定実務について講義を依頼、台湾がスマートメーター認証と検定実務を発展させる参考に供した。そ

他、日本は多年にわたって AI 技術の発展に力を注いできた。国内の多くの企業が台日間で技術応用協力を展開しており、台湾はすでに AI の産業化及び産業の AI 化において重要な推進役に列している。日本との研修計画をとおして、両国の AI 産業発展の趨勢と問題を把握し、その中から双方が将来協力を進め AI 産業の応用面で連携できる可能性を探ること、さらに、内容は深遠であるが理解しやすい応用実例から、日本の AI 技術応用能力と発展方向を理解し、国内の関連政策推進の参考にすることを期待している。

台日産業協力

新型コロナウイルス感染症の世界規模での状況変化に際し、台湾は AI・IoT・5G・VR/AR という新技術の応用に成功、防疫ネットワークを強化した。また、防疫関係のビジネス・チャンスも時勢に乗って拡大した。この機を活かして、経済省台日産業協力推進事務室（TJPO）は2020年9月に台北市で「台日産業協力架け橋フォーラム（TJ Connect Fair）」を挙

げて協力可能な機会、デジタル技術を使ったスマート・サービスも両国間で協力関係を発展させる機会がより多く備わっている領域になること、を重点的に取り上げた。フォーラム当日は日本の地方にある15の県と市、台湾企業60社が参加、台日双方の特色ある産業間の連携を深め、さらに両国が産業協力の最も良きパートナーであることを示した。

2021 年台日デジタル貿易キャンペーン活動：デジタル関連 e コマース大進撃

会議時間：2021 年 7 月 23 日（金） 14:00-16:05（13:30 オンライン入室開始）

活動内容：日本はインターネット普及率が 98% 近くに達しており、世界第 4 位の e コマース市場である。経済産業省の推計によれば、日本の e コマースの市場規模は既に 2020 年において 20 兆円を突破、しかも年々拡大している。近年、台湾と日本の関係は友好的であり、日本の消費者は次第に台湾ブランドを受け入れ始めている。台湾企業はボーダーレスなデジタル貿易をいかに利用して日本市場に進出するか？

主催者：経済省国際貿易局

ウェブサイト：<https://events.taiwantrade.com/2021TWJP-EC>

『コロナ後の新生活に向けて』台日デジタル技術の発展・イノベーション・応用コンファレンス

会議時間：2021 年 8 月 5 日（木） 09:00-16:50（08:30 オンライン入室開始）

活動内容：このコンファレンスは、「新型コロナウイルス感染症後のデジタル技術」発展戦略の主な方向性に焦点を合わせたものである。日本の代表的な技術・産業専門家による講演と台湾の関係する産官学研究機関との対談を予定、台日のアフターコロナ時代におけるデジタル技術応用の協力について共通認識と戦略の方向性に焦点をあてる。

主催者：台湾日本関係協会科技交流委員会

ウェブサイト：<http://www.cier.edu.tw/news/detail/80355>

中小企業オートメーション化解決計画オンライン発表会・相談会

会議時間：発表会 2021 年 8 月 26 日（木） 15:00-16:00

相談会 2021 年 9 月 2 日（木） 14:00-17:00

活動内容：オートメーション化の提案を擁する優秀な企業が集結。インダストリー 4.0 の潮流のなか、スマート化とオートメーション化は必然の趨勢である。現在、日本の中小企業はまさにオートメーション化へ転換する時期にある。経済産業省は補助金をさらに提供し、11 兆円の経済効果創出を期待している。今、まさに日本市場を開拓する好機である。

主催者：経済省国際貿易局

ウェブサイト：<https://events.taiwantrade.com/page/EBS/auto0826>

2021 年日本の消費者向け製品市場開発団

活動時間：2021 年 9 月 29 日（水）09:30-16:30

活動内容：自社の優れた品質の商品を日本に販売したいが、購入者が見つからない？ 「日本の消費者向け製品大型市場開発団」は、25 年の歴史を持ち、日本企業の間でも評判が良く知名度も高い。前回（2020 年）は新型コロナウイルス感染症の影響で初めてオンライン開催となったものの、わずか 1 日の開催に 33 社もの台湾企業が参加した。オンライン相談では、大型家電量販店のビック・カメラ、玩具製造のバンダイ、西谷商事などから 110 名を超えるバイヤーが参加した。

主催者：経済省国際貿易局

ウェブサイト：<https://events.taiwantrade.com/2021JPTM>

2021 年海外オンライン・ジョブフェア（合同会社説明会）

活動時間：東京会場・大阪会場とも 2021 年 11 月 14 日（日）

活動内容：台湾・日本の人材マッチング

主催者：経済省投資台湾事務所

ウェブサイト：<https://www.contacttaiwan.tw/main/docDetail.aspx?lang=1&uid=656&doc>

投資相談窓口

投資台湾事務所	台北市中正区襄陽路 1 号 8F	+886-2-2311-2031
経済省投資業務処	台北市館前路 71 号 8F	+886-2-2389-2111（内線：214） 担当：黄雅綾

InvesTaiwan: <https://investtaiwan.nat.gov.tw/homePage?lang=jpn>

